

TOKYO MAIL NEWS



EAST
TRANSPORT
SERVICE WORKERS
UNION

輸送サービス労組 東京地本

JTSU-E TOKYO

2021.8.26
No.022



8月25日 東地申第3号

東京地本第3回定期大会及び

支部大会の発言に基づいた申し入れ【安全】を行う！

2021年7月10日、JR東日本輸送サービス労働組合東京地本は「第3回定期大会」を開催しました。あわせて各支部の大会も開催し、経営のチェック機能としての労働組合としての役割を遺憾なく発揮して、安心できる職場をつくり出すことやエッセンシャルワーカーとしての労働の価値を証明し「いのち」と「生活」を第一にした労働条件の確立と、安全な鉄道を走らせ続けることを確認してきました。

4月28日JR東日本の2021年3月期決算が発表され、初めて経験する赤字決算は企業としての存続はもとより、私たちが労働する環境や家族の生活に直結する問題として真摯に受け止めなければなりません。しかし、現場では社員の危機感のみが煽られ、これまで以上の重圧を感じながら日々の業務を行なっています。コストダウンの一方で不要不急な投資に強い矛盾を感じています。

大会では、繰り返し発生する事故・事象に対し「人に起因する事故には、人への投資や現場に力を蓄積しなければならない」ことや「委員会などの企画業務によって本来業務に集中できない職場環境になっている」また、「本来業務に対する正しい評価がなされていない」ことも要因だと発言がありました。さらには「新たなジョブローテーション」や「現業機関における柔軟な働き方」「兼務」「担当業務間の相互運用」「副業」など、施策毎の整合性を感じないばかりか、各系統の施策についても「変革2027」の下に変えることが目的化され、本来の施策の目的を見失っていることに対する危機感も出されています。

コロナ禍において、公共交通を担う私たちは、社会生活にかかせないエッセンシャルワーカーであるということが改めて見直されました。安定的なエッセンシャルサービスを提供するためにはJR東日本のトッププライオリティである安全を第一にこのコロナ禍を乗り越えていかななくてはなりません。地域の足を守り抜いてきた鉄道会社としての誇りと使命をかけて、さらなる鉄道の安全とつくり出し、その安全を最先頭で守り抜く全ての仲間の「いのち」と「健康」そして「雇用」を守ることが急務な課題です。そのためには健全な経営は言うまでもなく、これまで培われた知識や経験、そして継承されてきた技術を活かして、安全文化や何でも言い合える職場風土の醸成が必要なことから、地本は以下の通り申し入れを行いました。

～申し入れ事項～

1. 2021年6月20日に発生した、渋谷変電所内でのき線ケーブル損傷に伴う停電について以下の点を明らかにすること。
 - ①原因と対策について明らかにすること。
 - ②機外停車の旅客救済における成果と課題について明らかにすること。
2. 繰り返し発生する同種事象の傾向と現段階における対策を明らかにすること。
また、2020年度に発生した「社員による取扱い誤り」の件数を明らかにすること。

鉄道業の「安全性」「専門性」そして働きがいを実感できる職場をつくりだすため、地本は組合員の声をもとに、団体交渉に臨みます！